



## 「人間尊重」に基づきともに働く喜び

希望の里ホンダ (株) / ホンダ太陽 (株) / ホンダ R&D太陽 (株)

創業時からの企業哲学である「Hondaフィロソフィー」の基本理念の1つに「人間尊重」が謳われています。これは「人間は本来、夢や希望を抱いてその実現のために思考し、創造する自由で個性的な存在である」ととらえ、「こうした人間が集い、個性を尊重しあい、平等な関係に立ち、信頼し、持てる力を尽くすことで、ともに喜びを分かちあいたい」という理念です。そしてこの理念は、Hondaグループすべての企業とそこで働く従業員一人ひとりに共有されています。

この基本理念に加えて、「良いものを早く、安く、低炭素でお客様にお届けする」というHondaの2020年ビジョンの変革の方向性には、「商品と、そこに込めた技術の思想をもって、世の中、そして人の役に立ちたい」「Hondaらしいユニークな発想で、人々の暮らしを便利で楽しいものにしたい」というHondaの原点があります。創業から抱き続けてきた「世の中と人の役に立ちたい」という想い。この想いはすべてのHondaで働く従業員に通じており、これまでもこれからも変わらずHondaの原点でありつづけます。

### 個性を尊重し、ともに働く職場

Hondaが障がい者の雇用に関する特例子会社<sup>\*</sup>を設立するきっかけとなったのは、創業者の本田宗一郎と、社会福祉法人「太陽の家」の創設者中村裕博士との出会いでした。中村博士の“世に身心障害者はあっても仕事に障害はありえない”“保護より働く機会を”という考えに共感、賛同した本田宗一郎が「障がいのある人たちの社会的自立の促進」の理念のもと、1981年にHondaのお取引先とともにホンダ太陽 (株) を大分に設立しました。そして1985年、熊本に第三セクターとして希望の里ホンダ (株) を、さらに (株) 本田技術研究所が1992年に太陽の家と共同出資したホンダ R&D太陽 (株) を大分に設立。またHondaの各事業所においても、障がいのある人を継続的に雇用し、ともに働く場を創出しています。Hondaは、今後も障がいの有無にかかわらず、多様な人材が集い、ともに働き、ともに喜びを分かちあっていくことをめざして、障がいのある人の働く場と活躍する機会の提供に取り組んでいきたいと考えています。

<sup>\*</sup>特例子会社 障がい者の雇用促進などに関する法律に基づき設立する会社で、障がい者の雇用拡大を目的としている。



1981年9月、ホンダ太陽 (株) 設立時に別府工場を訪れ、部品を手に取りながら、従業員に話し掛ける中村裕博士と本田宗一郎 (右)

## 「人間尊重」と働きがいの追求

希望の里ホンダ (株)



### 創立 25周年をむかえて

1985年に重度の障がいのある人を多数雇用する企業として、熊本県・松橋町(現 宇城市)・Hondaの共同出資による第三セクター方式で設立された希望の里ホンダ (株) は、2010年に25周年をむかえました。

設立以来、「社会的評価が得られる自立した働きがいのあるノーマライゼーション※1工場」をめざして、障がい者と健常者が分けへだてなく働くことができる職場環境を整備しています。工場内には、従業員がさまざまな作業をこなせるよう設備改善が施されており、たとえば、ピストンリングの自動組付機は、車いすの作業者が一人で組付の全工程をできるように工夫されています。

また、私たちは、人間尊重を従業員の「働きがい」としてとらえ、障がいのあるなしに関わらず新しい仕事にチャレンジする機会を積極的に与えることで、真の自立を促しています。

希望の里ホンダ (株) は、働く従業員の自立だけではなく、企業としても魅力ある会社として自立するために、親会社である本田技研工業が求める高い要求に一生懸命応え、競争力をつける努力を怠らないことが重要です。本田技研工業が求めるQCD※2のなか

でも、特に製品の「品質」には高い意識をもって取り組んでおり、健常者・障がい者を問わず、共通の高い目標を定めることで、働く従業員のベクトルをあわせています。

希望の里ホンダ (株) のこれからの課題は、障がい者の雇用だけではなく、個々の従業員の仕事の幅をひろげ、ゆくゆくは部品だけでなく希望の里ホンダ (株) の商品をつくれるようになることです。それが、従業員の仕事に対するやりがいや責任感につながり、より高いモチベーションにつながる、だから、そんな夢を実現したいと思っています。



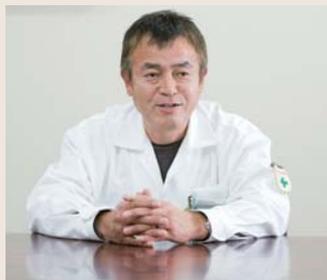
希望の里ホンダ (株) 代表取締役社長 荒木洋二 (2011年6月退任)

- ※1 ノーマライゼーション 障がいをもつ人も健常な人と一緒に働き生活をしている状態が通常(ノーマル)であることを表現する言葉。
- ※2 QCD 品質(Quality)、価格(Cost)、納期(Delivery)における対応やサポートの頭文字をとったもの。

### 品質で妥協はしません

「希望の里ホンダ (株) では、年間約500万個の部品を出荷しており、そのほとんどが少量多品種生産で、機械による大量自動生産が難しいものばかりです。そういった状況でも、つねに高い品質を実現するため、従業員の意識づけや、職場環境の整備を進め、究極の目標不具合「0」に向けて取り組んでいきたいと思っています。」(希望の里ホンダ (株) 品質管理担当 松山浩明)

高い品質の製品をつくりつづけていくためには、従業員



希望の里ホンダ (株) 品質管理担当 松山浩明

の教育や日々のコミュニケーションが重要になってきます。希望の里ホンダ (株) では、新入社員に対して、障がいのあるなしにかかわらず、その業務を担当する先輩が指導をしています。それは、新入社員がノーマライゼーションの意味をはじめて体感するときでもあり、また指導する先輩にとっても、責任ある仕事を任せることで、さらなる成長を促します。「自分から、分からないことは聞くなど積極的にコミュニケーションをとることでお互



希望の里ホンダ (株) 生産担当 松永公清

いを理解しあえたい、仲間の支えがあったからこそ、25年間仕事をつづけることができました。いまは会社に行きみんなに会えるのが楽しみです。」(希望の里ホンダ(株) 生産担当 松永公清)  
 希望の里ホンダ(株)は、これからも真に自立した従業員が、誇りと喜びをもって働ける会社として進化をつづけていきます。



ユニバーサル化された工場内



熊本製作所で生産する、すべての二輪、汎用製品のピストンを供給

### 希望の里ホンダ(株)の職場から



希望の里ホンダ(株)  
岩下啓三

「担当は会計業務です。最近仕事が変わりちょっと戸惑いましたが、職場の人に助けをもらいながら何とかこなせるようになりました。」

「大分国際車いすマラソン」では、同僚の声援が走りながら聞こえてきて、それが励みになりました。マラソンに出るようになって、日々の職場でも従業員同士のコミュニケーションが増えてきました。」



希望の里ホンダ(株)  
久保田豊

「創業時から勤めています。最初は何も分からず手探りで、一つひとつ階段をあげるように学んできました。そのコツコツとやってきた

結果もあり障がい者の職業的自立の意欲を喚起したことなどを評価され、2010年8月には優秀勤労障がい者賞(厚生労働大臣賞)をいただきました。いまは生産計画などに従事しています。」

## 理念は「何より人間—夢・希望・笑顔」

ホンダ太陽(株) / ホンダR&D太陽(株)



### 「特例」抜きで期待される会社になる

ホンダ太陽(株)は、「何より人間—夢・希望・笑顔—We are the creative challenger」の基本理念のもと、働く一人ひとりが持ち味を活かして、高品質なHondaの製品づくりの一翼を担っています。そして地域や社会からホンダ太陽(株)があってよかったと思ってもらえる、またそこで働く従業員がここで働いてよかったと思える会社をめざしています。

我々には特例子会社として2つの使命があります。1つは、ホンダ太陽(株)として多様な障がいのある人を雇用し、一人ひとりに活躍する機会を作り出すことです。もう1つは、障がい者雇用の先駆

的な役割、つまり障がい者の仕事の幅をひろげ、その取り組みを広く社外に発信し、社会全体のより多くの雇用につなげていくことです。

現在ホンダ太陽(株)では、部品製造の仕事に加え、新たな職域開拓としてコンピュータのデータ処理サービスにもチャレンジしはじめました。このよう



ホンダ太陽(株) 代表取締役社長 西田晴泰

な仕事はどこの会社にもあるので、将来多くの障がい者雇用につながる可能性があると考えています。

現在Hondaは、グループ全体で障がい者雇用も含めた多様性をさらに推進しています。我々ホンダ太陽(株)もその一助となるべく、月1回、Hondaの各事業所の従業員に当地に集まっていたとき、私たちが四半世紀をかけて蓄積した「ともに働く」ための経験知見を紹介しています。今後もこのような取り組みを通して

Hondaグループや関係企業の障がい者雇用の促進、環境整備に寄与していきたいと思います。

また、従業員がお互いに切磋琢磨しながら多様な価値を創り出していくことで、「特例」子会社として注目されるのではなく、「高品質を売りにする一企業として存在を期待されるようになる」それが私の夢です。

### からくり改善

2008年に大分県日出町に完成したホンダ太陽(株)の新工場は、障がいのある人の意見を取り入れて設計をおこない、障がい者が健常者と同じように働くことができる環境を実現しています。全方向から見えるパトライト、車いす使用者でも検査がしやすいように上下に移動する機器といった、多様性実現のためのさまざまな工夫が施されています。また、このような設備環境の向上だけでなく、従業員自らが工夫し、独自開発した作業用治具の製作など、「からくり改善」と称する改善活動をつづけています。



市販のペンを使って作業用の印を正しく確実につける工夫を施した「からくり改善」

### ホンダ太陽(株)の職場から



ホンダ太陽(株)  
戸澤和彦

「私の担当している部品は、フィットやフリードに使われているエンジンのゴムチューブです。改善提案によって、片手でも楽に部品を差し込めるようになりました。」



ホンダ太陽(株)  
渡辺昭次

「班長になって1年足らずですが、その日の生産の流れ、人の配置を把握することはもちろん、みんなの健康状態にも気を配ることが仕事だと思っています。」



ホンダ太陽(株)  
松森宏人

「生産管理システムに従事しています。一人でできないこともありませんが、できることはやはり自分でやりたいと思っています。」



ホンダ太陽(株)  
中野祥子

「クルマのナンバープレートを照らすランプをつくっています。今日は何個作る、という目標を立てることが達成感につながっています。」

### ホンダR&D太陽(株)の職場から

#### 夢・希望・笑顔のためにチャレンジ

入社してすぐの1995年、(株)本田技術研究所の開発者から「こういうレーサーに乗ってみたいか、一緒につくらないか」と誘いを受け、車いすレースをはじめました。2000年にホンダ・アスリートができたことで、カーボンレーサー開発のリーダーになり、自分でつくり、自分で試し、練習する毎日がつづきました。そして、開発グループの仲間の応援を受けて、「大分国際車いすマラソン大会(ハーフマラソンの部)」に出場し、2003年から3連覇。現在も後輩たちと一緒にレースに参加しています。Hondaは自分のやりたいという希望に応えてくれる、働きがいのある会社だと実感しています。



ホンダR&D太陽(株) 渡辺智輔